

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500139		
法人名	株式会社 三協医科器械		
事業所名	あったかいごグループホームアテルイ		
所在地	岩手県奥州市水沢区佐倉河字石橋7番		
自己評価作成日	平成28年10月2日	評価結果市町村受理日	平成29年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2015_022_ki_hon=true&ji_gvosvoQd=0391500139-00&PrEfCj=03&VerSiOnCj=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム運営方針の「家庭的」な雰囲気損なう事無く、日々個人の尊厳を守る役目に努めている。要介護度に幅があるが、利用者間での助け合いもある。ホールで過ごす時間を大切に考え、談話や情報の共有を利用者とも行っている。医療との連携にも継続が出来ており、往診の対応や日々の観察を家族様へも伝達し安心できる体制に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・ホームの運営には、円滑な人間関係が重要と考え、訪問者は元より、利用者職員、利用者同士、職員同士の挨拶の徹底を実践している。調査員来訪時、利用者職員に、笑顔で迎えられ、温かな雰囲気が感じられた。
・利用者の機能が低下してきており、社会参加等が困難になってきている。機能を維持し日々健やかに安全に生活できるよう、職員一体となってケアに取り組んでいる。
・医療については、入居前のかかりつけ医を継続しており、機能低下等で通院が困難になってきた利用者には、往診での対応に変更して頂く等、良好な連携が図られている。また、訪問看護を導入し、健康管理や健康相談の充実を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホールに掲示。常に確認・意識・実践できるよう努めている。また、会議や申し送りの時間を統一に努めている。	理念をホールに掲示している。月1回の会議時や日々の申し送り時に、理念を意識し、意見の統一に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の夏祭り見物。散歩を通し、近隣の方々からの声もある。継続し、地域包括主催の「思い出カフェ」への参加もしている。	北常盤地区町内会に加入している。夏祭りでは、ステージ前の席が準備されており、利用者が参加している。散歩では、声をかけられる。地域包括主催の「思い出カフェ」に参加し、一般の方と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	孤立した雰囲気にはせず、どなたであっても来所・交流できる環境にある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月毎での開催で、運営状況のお知らせを行っている。ひやりはつと報告や今後に対する取り組みにも助言を出席者より頂戴している。	運営推進会議に家族も参加しており、市の職員に質問し、指導をいただいたりしている。利用者も参加したことがあり、自分の名前を紹介した。交番所長や消防署員も参加している。委員の方々に、ホームの広報「あったかいごアテルイ通信」(隔月発行)を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での出席から、情報の伝達・相談できる関係にある。	市の担当者は、運営推進会議の委員でもあり、意見や助言を頂いている。認定の更新、変更等の代行や事故報告等、窓口直接向いて報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロの手引きを常時回覧。日中の玄関扉の施錠はしていない。	身体拘束ゼロの手引きを回覧し、意識付けしている。スピーチロックについて、敬語の使い方、声の大きさ、座る位置等意識しながらかかわっている。また、外部の研修(アンガーマネジメント)に参加し、会議で伝達講習している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護推進資料同様に、新聞記事やニュース・日々の業務内で起こる得る内容を意見を通し実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の人権を脅かさないように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時より、重要事項説明書で説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活から伺える希望を取り入れ、個別に対応する体制にある。広報や面会時に日々の様をお伝えしている。	家族からは、運営推進会議や面会時に意見を聞いている。感謝の気持ちを伝えて頂いている。広報(アテルイ通信)に、利用者のホームでの生活、健康状態等記入する欄を設け、担当者が記入し、送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	挨拶の徹底。会議では各入居者様の情報共有・統一した支援の見直し・業務内容の確認など行っている。	事業所の運営において、円滑な人間関係が大切と考え、訪問者はもとより、利用者や職員、利用者同士、職員同士の挨拶の徹底を実践している。会議では、業務の見直し、確認等行っている。職員からの個人面談にも随時、応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の個性を大切にしている。個別面談や、希望休暇・人事考課制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・職員間での共有、勉強会を用いている。 また、全職員が同じではなく個性や意見、実践させる機会を設け、身に付けることが出来よう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に入会しており、定例会への参加・研修参加をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に行う、事前調査では出来る限りの情報を得よう努めている。また、入所後の入居者様が不安にならないよう、事前の情報を元に全職員が統一した対応に配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時には、家族様との談話時間を設けている。家族様の意向や事情にも柔軟に対応できるようお応えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の居宅ケアマネやサービス利用時に訪問、情報を得てご本人の意向に添ったケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の役割があり、家庭・家族としての雰囲気もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な家族様への情報伝達は行っている。家族様の意向に関しても、耳を傾け良い関係に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期に手紙や電話での係わりもある。行事を行なう際には案内を送付し参加を求めている。毎月家族様へは日常生活の様子を写真にし、郵送している。	センター方式の一部を取り入れ、馴染みの人や場の把握をし、関係継続の支援をしている。遠方の家族から、定期的到手紙や電話を頂く方には、途切れないよう支援している。行事の際には、家族にも通知し、参加していただいている。ゆきつけの理容室や美容室、訪問理容の利用を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の助け合いも生まれている。要介護度の違いから状態の相違もあるが、協力し合う姿がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ対応させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様からの情報や、利用者担当職員より情報共有を蜜にしている。コミュニケーションの難しい入居者様については、表情や行動から汲み取り、共有・対応に努めている。	家族からの情報や担当職員の気づきを共有している。ことばでの把握が困難な方は、表情(笑顔が曇る)や動作(そわそわ落ち着きなくなる、差し伸べた手を払う等)から汲み取っている。得た情報は、申し送りや会議等で共有し対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活での流れを強制せず、ご本人のペースを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別日誌を活用しながら、変化に柔軟な対応をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式・利用者担当職員からの情報や、家族様・主治医の意見も盛り込んでいる。カンファレンスより見直しがあればその都度対応し支援に活かしている。	利用開始時は、ケアマネジャーがアセスメントし、計画を作成している。見直し時には、ケアマネジャー、担当職員等がモニタリングし、ケアマネジャーが作成した計画を会議で検討、周知している。本人・家族に説明し、署名を頂いている。本人が署名する能力(力)を大事にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・個別ケース記録・業務日誌を用いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科・掛かり付け医の往診・車椅子・電動ベッドの導入・定期的な理容を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の関係機関(消防・交番)にも運営推進会議の参加をお願いしており、施設に認知に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの掛かりつけ医の継続を促している。家族様の事情により対応できない際には、職員対応で行ない、定期的な受診に努めている。主治医にも情報提供し直接的に助言もいただいている。	入居前のかかりつけ医を継続している。通院は家族が行っているが、都合つかない場合は職員が対応している。主治医には、ホームでの生活状況を伝え、直接助言を頂いている。また、週1回訪問看護を導入し、健康管理・相談を継続している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護があり、健康管理・相談を継続している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要に応じ、情報提供を行っている。退院前には、家族様との連携の下、医療機関と連絡をとり退院後の混乱が無いよう配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた取り組みや受け入れに関しても職員間で行っている。が、未だに不十分さが残る。家族様の意向では看取りに関しての声はない。状況や様態の変化に対応する必要性や医療機関との連携・相談に課題が残る。	これまで、看取りの実績はない。また、家族から、看取りの希望はない。法人の看護師を講師に、重度化や終末期に向けた対応について研修しており、今後に向け研修を重ねていきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルより、周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練開催している。水害に関しての訓練も今後行い、周知する。また、災害マニュアルを法人内で検討・統一化を図る。	年2回避難訓練を実施している。岩泉の台風10号に伴う事故について、県からの通知があった。水害に関する訓練を行うこととしている。また、法人で、災害マニュアルを検討し、統一化を図ることとしている。	・法人の災害マニュアルを作成されたい。 ・県の通知に基づき、ホームの防災ガイドBOOKを試作されたい。 ・夜間の避難訓練を実施し、課題の把握、対応を検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人の姿を大切にしている。その方にあった声がけや促しをし配慮している。職員間としては、対応後にも振り返りを行ってもらい今後には活かす工夫をしている。	利用者には、名前で声掛けしている。排泄時には、散歩しますかと声掛けしている。自分からトイレと言う方もいる。利用者一人ひとりに合った言葉を把握し、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決定権は利用者様にあると考える。職員が決めつけとならぬように、思いを汲み取り達成まで見守っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先とせず、利用者主体であると意識・支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定の機会でもある。季節に見合った衣類や定期的な理容の提供で支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の要望にも定期に応じている。何気ない会話から取り入れ、提供に繋げている。また、外食の機会も設け、普段と違う雰囲気や食事に支援している。	毎日、ホールに献立を板書している。献立は職員が1週間分を作成し、買い物は、利用者も一緒に行っている。日々の会話から聞き取った食べたい物を献立に取り入れている。今日は〇〇さんの希望ですと、食事時告知している。利用者のペースに合わせた介助をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月初めには体重測定・日々の食事摂取量・水分摂取量にも気を配り、常時対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の口腔体操・食後の口腔ケアには時間をかけている。歯科往診にも家族様と連携をとりながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	誘導・介助の必要な利用者には、定時に対応している。また、テープ留めおむつのみとせず、昼間リハビリパンツに交換と適せな用途に応じ対応している。	トイレでの排泄を支援している。テープ止めのおむつは窮屈感や蒸れが考えられることから、日中はリハビリパンツを使用し、不快感を軽減している。布パンツの方が3名おり、機能維持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通の良い食事にも配慮し、朝は牛乳・昼食時にはヨーグルトの提供をしている。また、下剤の調整により定期的な排便に繋げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週三回午後に入浴支援を行っている。希望であれば時間問わず対応している。	月曜日から土曜日まで浴室の準備をしている。利用者は、週3回午後入浴できている。希望があれば、随時対応している。着衣は職員と一緒に準備している。異性介助にはこだわりのない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の室温管理や、照明への配慮・不眠時には暖かい飲み物の提供など工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬情報紙のファイル化により、常時確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の役割が習慣となっている。天候を見ながら、近隣の散歩や敷地内での日光浴も行っている。レクとして、体操や手先を動かす折り紙なども行い、活動の時間を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩が主である。ドライブや隣接する施設慰問など行っている。継続として、通院後の帰荘時には買い物を楽しめる利用者様もおられる。	散歩時は地域の方と挨拶している。年数回、季節を楽しむドライブをしている。隣接している同法人の事業所の利用者と相互に交流している。通院の帰途、スーパーで、自分のおやつや果物を買ったりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2名所持しているが、散歩やドライブ時に対応している。商品を決め、自身で会計・購入する感覚を得られるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人・家族様の了解の下読み上げる事もある。電話については取り次いだり、口頭や文章でお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の紹介写真あり。また、日常生活の写真も掲示する事で、利用者様・家族様・面会者もご覧になり、雰囲気造りに繋げている。	ホールの壁には、職員の紹介写真を掲示している。また、利用者や家族・面会者とのスナップ写真、行事の写真を拡大し、センス良く貼付している。テレビ、ソファ、小上がりが配置され、思い思いの場所に寛いでいる。雛飾り、七夕飾り、クリスマスと季節を楽しむ配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席については、一方的に決めず状況に応じ対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様ご本人が、使い慣れた物の持込をお願いしている。安心して過ごせるよう、ご本人の意思に添い、配置や整理を行っている。	居室には、ベッド、空気清浄機、洗面台、押入れ、エアコンが設置されている。寝具は、タオルケット、毛布は自前で、布団・肌掛けは準備されている。、整理筆筒、椅子を持ち込んで配置したり、ご主人の写真を飾ったりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	限られた空間の中で、障害となる物への配慮・廃除を行っている。歩行しやすい空間造りを意識している。		